



SAPPORO

第100期

株主通信

Contents

社長メッセージ	01
中期経営計画2023～26	02
サステナビリティトピックス	03
特集 海外事業	04
サッポログループ トピックス	05
財務データ	07
株主様とのコミュニケーション	08
会社情報／株式情報	09

サッポロホールディングス株式会社

証券コード 2501



創業150周年の先を見据え 事業構造の転換と 新たな成長基盤の構築に挑む

「個性かがやくブランド」と「お客様や地域とのつながり」を活かして
人々と社会のWell-beingに貢献し続ける

サッポログループは、1876年の創業以来、酒類事業、食品飲料事業など、「食べる」「飲む」という人の根源的な営みにかかわる事業を展開してきました。外食事業や不動産事業も、食事やショッピングを楽しむ、快適に住む・働くといった、人々が心豊かな時間を過ごせる空間を提供するビジネスです。このように、当社グループの事業はいつでも、人々の暮らしや社会に潤いをもたらす、その豊かさに貢献することを目指しています。こうした考え方のもとに当社は、グループの提供価値を「全ての事業が提供する時間と空間で、人々と地域社会のWell-beingに貢献」と明確化しました。

これらを具現化していくうえで大きな強みとなるのが、グループの資産である「個性かがやくブランド」と「お客様や地域とのつながり」です。「個性かがやくブランド」とは、単に商品のブランドだけでなく、企業やまち、地域のブランドも含まれます。グループの人財もブランドの大切な構成要素です。また、当社は「お客様や地域とのつながり」を深めるため、発祥の地である札幌や恵比寿を再開発し、地域に根差した企業として独自性をもってブランドを育ててきました。

当社では、酒類・食品飲料・不動産事業のシナジーをいっそう加速させ、「時間」と「空間」という2つの側面から、「独自のブランド体験」をお客様に提供し、人々と社会のWell-beingに貢献し続けていきます。

株主の皆様には、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 尾賀 真城

新たな中期経営計画のもと、 事業構造を転換し、 持続的成長を実現する。

サッポログループは、2023年から2026年までの新たな中期経営計画をスタートさせました。本計画では「事業戦略」「財務戦略」「サステナビリティ」の3つを戦略の柱に据え、事業構造を転換し、持続的成長に向けた基盤構築を目指します。

「事業戦略」では、事業ポートフォリオの整理によって各事業の位置づけと課題を明確化し、構造改革を行います。また、国内各事業のキャッシュ創出力・資本効率を向上させるとともに、海外事業を成長ドライバーとして、各市場における取り組みを強化していきます。

「財務戦略」では、現状の格付けを維持する水準で財務の健全性を確保することを基本とし、営業キャッシュ・フローとのバランスを取りながら海外事業へ優先的に投資することで成長を促進します。株主還元については、連結配当性向30%以上を基本として、利益成長をともなった配当水準の向上を目指します。

「サステナビリティ」では、社会情勢や事業環境の変化を踏まえて重点課題を全面的に見直しました。「脱炭素社会の実現」「地域との共栄」「多様な人財の活躍」を最注力課題と位置づけ、進捗をモニタリングしながら取り組みを推進していきます。

今後も、世界中のサッポログループ従業員とステークホルダーとのパートナーシップのもと、社会価値と経済価値の創出を両立させ、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

－ 経営理念 －
潤いを創造し 豊かさに貢献する

－ サッポログループが提供する価値 －
全ての事業が提供する時間と空間で、人々と地域社会のWell-beingに貢献

中期経営計画2023～26 Beyond150 ～事業構造を転換し新たな成長へ～

財務目標

- ROE 8%
- EBITDA年平均成長率(CAGR) 10%程度
- 海外売上高年平均成長率(CAGR) 10%程度

主な非財務目標

- 温室効果ガス排出量削減(2030年)
スコープ1・2 2022年比で**42%**削減
スコープ3 2022年比で**25%**削減
- 女性役員比率、女性管理職比率 **12%**以上(2026年)

事業戦略

不採算事業を抜本的に改革し、成長領域へリソースをシフト。KPIの達成度、アクションプランの進捗状況をモニタリング。

- 事業ポートフォリオの整理
- 海外事業の成長
- コア事業における収益力強化

財務戦略

持続的成長と資本効率を重視しキャッシュ創出力を高め、企業価値向上を目指す。

株主還元方針
安定配当を重視し、その水準を向上(連結配当性向30%以上を基本とする)

サステナビリティ

環境変化をふまえ見直した9つの重点課題に取り組む。

3つの最注力課題

- 脱炭素社会の実現
- 地域との共栄
- 多様な人財の活躍

経営基盤 人財・DX・R&D

サステナビリティ重点課題への取り組みで、 人々と地域社会のWell-beingに貢献する

中期経営計画(2023~26)の策定にあたり、グループを取り巻く社会情勢や事業環境の変化に対応してサステナビリティ重点課題を全面的に見直しました。なかでも、事業との関連性や、リスクと機会の影響度の大きさから、「①脱炭素社会の実現」「④地域との共栄」「⑦多様な人財の活躍」を最注力課題と位置づけています。サステナビリティ方針「大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。」のもと、9つの重点課題への取り組みを推進し、人々と地域社会のWell-beingに貢献していきます。

提供価値

全ての事業が提供する時間と空間で、人々と地域社会のWell-beingに貢献

環境との調和

- ① 脱炭素社会の実現 ★
- ② 循環型社会の実現
- ③ 自然共生社会の実現

社会との共栄

- ④ 地域との共栄 ★
- ⑤ 健康価値の提供
- ⑥ 持続可能なサプライチェーン構築

人財の活躍

- ⑦ 多様な人財の活躍 ★

⑧ 責任ある飲酒の推進

⑨ 安全な商品・施設の提供

サステナビリティ方針

大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。

★…最注力課題

SUSTAINABILITY ACTION

1 環境配慮型の次世代容器包装 「ecoフレンドリー」プロジェクト始動

サッポロビールでは、紙の使用量を大幅に削減し、資材製造でのCO₂排出量を削減する環境配慮型の次世代容器包装として、「改良型6缶パック」と「エコハット」の2タイプを試作し、2023年2~3月にテスト販売しました。今後、安全性や使用感などを検証し、さらなる改良を進めていきます。



2 レモンの食育活動を推進し 「食育推進企業・団体」に初認定

ポッカサッポロでは「レモンをはじめとした植物性素材を中心に、毎日の食生活に寄り添い、元気と笑顔を応援します」という食育方針を掲げ、活動を展開しています。この取り組みが評価され、一般社団法人日本食育学会より2023年度^{※1}の「食育推進企業・団体」に初認定されました。



3 人財の取り組みを強化し、 新たな価値の創出へ

子育て支援に取り組む企業として、「プラチナくるみん^{※2}」の認定を取得しているほか、健康経営の継続的な取り組みが評価され、「健康経営優良法人 ホワイ500」に認定されています。キャリア形成支援などの取り組みも強化、多様な人財が越境し活躍するための環境を整備し、新たな価値創出を目指します。



※1.2023年4月1日~2024年3月31日。 ※2.サッポロビール(ポッカサッポロは「くるみん」を取得)。

日本から、世界へ。 海外事業をさらに強くする

中期経営計画では、海外事業をグループの成長ドライバーとして位置づけています。これまでに培ってきた各地域でのブランド力・プレゼンスを基盤として、海外酒類事業と海外飲料事業をさらに拡大していきます。

海外酒類事業

事業概要 北米地域でSAPPOROブランドを拡大

海外酒類事業は、1964年に米国向けのビール輸出をスタートして以来、事業エリア・売上規模を着実に拡大し、現在は北米を中心に約45カ国で展開。近年は米国におけるSapporo Premium Beer(以下SPBという)の販売が特に好調で、37年連続でアジアビールNo.1^{※1}の売上を誇っています。

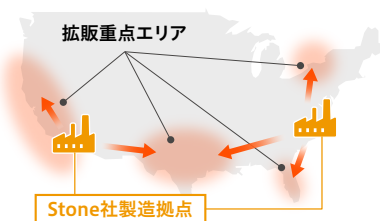
※1.出典:当社調べ



アメリカで
37年連続
アジアビール
シェアNo.1^{※1}

強化方針 新たな製造拠点獲得によりシナジーを発揮する

これまではアメリカ国内にSPBの自社製造拠点をもち、ベトナムやカナダから輸入していたため、物流コストや品質の安定化が課題でした。今後はグループ傘下となったStone社の製造拠点を活用することで、生産物流効率を改善するとともに、米国市場におけるプレゼンスの向上を目指します。



VOICE



グループの成長に向けた目標の達成に
大きな自信をもっています。

今回の統合によって「米国のビール市場におけるプレゼンス」、「当社が有する東西2工場の稼働率向上」、「継続的な成長のためのチームづくり」という優位性を獲得しました。統合に際しては多くの議論がなされ、すでに共通の目標を両社で共有しています。私たちは、グループ全体の成長に向けた長期目標の達成に大きな自信をもっています。

Maria Stipp

Stone Brewing Co., LLC
CEO



海外飲料事業

事業概要 シンガポールを中心に60カ国以上に展開

1977年、他の日本の飲料メーカーに先駆けてシンガポールに生産拠点を設立。シンガポール国内ではジャスマングリーンティーを中心に、茶系飲料で圧倒的なシェアを確立しています。また現在は、シンガポールから世界60カ国以上にPOKKAブランドの飲料を輸出し、さらなる成長を目指しています。

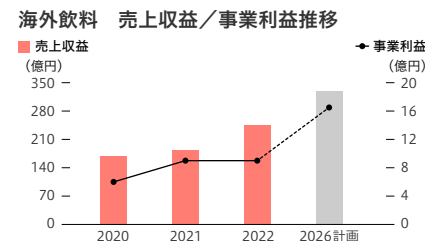
※2.マーケットシェアは、NielsenIQによって報告されたデータに基づく当社推計 Copyright (C) 2023, NielsenIQ



シンガポール
市場で
茶系飲料
シェアNo.1^{※2}

強化方針 東南アジア市場での売上拡大を目指す

シンガポールでは健康志向に対応した商品開発によってプレゼンスの維持を図ります。また、マレーシアや中東などでは、シンガポールで確立したブランド力や販売網を活かして販売体制・マーケティングを強化すると同時に、商品構成の充実と流通・販売網の最大化を推進。事業全体で売上高330億円を目指します。



VOICE



健康志向の高まりに対応し
商品ラインアップを拡充していきます。

シンガポールでは、健康ニーズの高まりに応える商品開発への投資を強化し、商品ラインアップを拡充していきます。また、物流・オフィス・R&D機能の集約化・効率化を推進します。そして、マレーシア市場とマレーシア以外の東南アジアおよび中東への輸出ビジネスについては、商品構成の向上と流通・販売網の最大化を目指します。

Rex Macaskill

POKKA PTE. LTD.
グループCEO





酒類事業

1 日本初^{※1}、糖質・プリン体70%^{※2}^{※3}オフの生ビール 「サッポロ生ビール ナナマル」新発売

サッポロビールは、「サッポロ生ビール ナナマル」を10月17日に全国で発売します。この商品は、日本初となる糖質・プリン体70%オフの生ビールです。2つのオフを実現しながら、良質な素材が生み出すビールならではの飲みごたえをお楽しみいただけます。

今後も主力ブランドの個性を磨き、多様なビールブランドによるビールの魅力化を推進することで、市場の活性化に貢献します。

※1.糖質・プリン体2つのオフを訴求する日本初のビール(Mintel GNPDを用いた当社調べ)

※2.日本食品標準成分表2020年版(八訂)による

※3.通年販売している当社缶ビールブランド平均値比(2023年4月時点)



2 食事を引き立てる“新・食中酒” 「サッポロ クラフトスパイスソーダ」新発売

サッポロビールは、「サッポロ クラフトスパイスソーダ」を9月12日に全国で発売します。この商品は、レモンピール、ジンジャー、コリアンダーなどを漬け込んだ、爽やかな風味の「スパイスピリッツ」を一部使用し、炭酸でキレのよい味わいに仕上げました。食事を引き立てる、無糖の食中酒として、お客様に新しい選択肢を提案します。

今後もお客様の食中酒ニーズにお応えしていくとともに、新たな市場を創造していきます。



3 AI需要予測システムの 本格的な運用開始

サッポロビールは、「AI需要予測システム」の運用を開始しました。この取り組みは、これまで人が担っていたビールやRTDの出荷における需要予測を、人とAIが協働して行うというものです。需要予測の高度化により、サプライチェーン全体の業務高度化、データ主導型の意思決定、在庫やコスト構造の最適化を図り、お客様のニーズにより迅速かつ柔軟に応えられるサプライチェーンの構築を目指します。

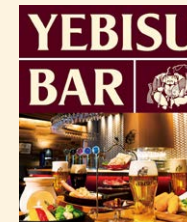
4 サッポロライオン創業124周年 創業祭「8月4日はビヤホールの日」

サッポロライオンは、2023年8月4日で創業124周年を迎えました。一世紀を超えるご愛顧へ感謝の気持ちを込め、全国各店(一部店舗除く)では、同日「ビヤホールの日」に、取扱いのある生ビール全品を終日半額で提供する創業祭を実施しました。7月18日からは、公式アプリにおいてお客様参加型の応募・投票イベントを実施しました。これからも、すべての人々にビールのおいしさを通じて「生きている喜び」を届けていきます。



5 都市部近郊を中心に YEBISU BAR(エビスバー)の出店を加速

サッポロライオンは2023年上半期、首都圏の都市部近郊、大阪、愛知などにYEBISU BARの出店(改装による業態変更を含む)を進めました。「ALL FOR YEBISU~エビスの全てが、ここにある。~」をコンセプトに置き、サッポロビールとサッポロライオンがともに構想を重ね、2009年に誕生した「YEBISU BAR(エビスバー)」。個性豊かな樽生エビスのそれぞれの特長に合わせた料理を用意し、“エビスと料理のマリアージュ”体験を提供します。





食品飲料事業

6 「キレートレモン」ブランド “機能訴求”商品が牽引し好調に推移

ポッカサッポロの主力ブランドである「キレートレモン」は、7年連続で過去最高出荷となりました。なかでも、機能性表示食品「キレートレモンクエン酸2700」シリーズ(瓶・ゼリー)は、日々の疲れを軽減したいというニーズを捉え特に好調です。また、これまで培ってきたレモンの研究成果を活かし昨年発売した、顔のむくみ感を軽減する機能性表示食品「キレートレモンMUKUMI」は、マスクを取る機会が増えてきたことからますます注目度が高まっています。

「キレートレモン」は、引き続きお客様の悩みに寄り添い、レモンでココロとカラダの健康を応援するブランドとして展開していきます。



[ブランドサイトへ](#)

7 グループ資産のホップを活かした 「北海道富良野ホップ炭酸水」で新たな接点拡大

「TOCHIとCRAFT」ブランドの一つである「北海道富良野ホップ炭酸水」は、100年以上ホップ栽培に携わるサッポロビールが、14年かけて開発したホップ“フラノビューティ”の香りを見事に無糖炭酸水で表現した商品です。2022年は「富良野ホップ」を使用していることがより伝わるようにリニューアルし、販売数量が2倍以上伸ばしました。また、近年お酒の楽しみ方が多様化していくなかで、お酒が飲めない方でもホップが楽しめる炭酸水として、仕事中等々さまざまなシーンでの飲用が広がっています。



[ブランドサイトへ](#)



不動産事業

8 ホテルクラビーサッポロを改装し、 「ホテル創成札幌 Mギャラリー」として2024年初オープン

札幌市中央区で運営する複合商業施設「サッポロファクトリー」では、施設内の「ホテルクラビーサッポロ」を改装し、アコー^{※1}のプレミアムホテルブランド「Mギャラリー」として2024年初にリニューアルオープンします。1876年に日本初の本格的なビール工場「開拓使麦酒醸造所」が誕生したこの場所で、新たに開業するこのホテルが、過去と未来をつなぐ拠点として、世界中のお客様に「忘れられない」ユニークで特別な宿泊体験を提供します。また、地域コミュニティの一端を担い、このエリアおよび札幌市、ひいては北海道の発展に寄与するホテルとなることを目指します。



9 保有全物件の電力の 脱炭素化に向けた取り組み

サッポロ不動産開発は、地球環境問題への対応と保有物件の価値向上を目指し、保有全物件について、2023年4月以降に調達する全電力の脱炭素化を実現する方針を決定しました。この取り組みでは、調達する全電力量に相当する非化石証書^{※2}を購入することで、非化石証書調達相当分の電力は実質再生可能エネルギー(以下、再エネ)由来100%の電力と同様の扱いとなり、CO₂排出量ゼロと見なされます。これにより、入居するすべてのテナントが再エネ由来100%の環境価値のついた電力を利用可能となり、テナント分も含めたCO₂削減量は年間約25,000トンを見込んでいます(うちサッポロ不動産開発分として年間13,000トン)。

※1.フランス・パリを拠点とし、世界110カ国で5,300を超えるホテルやレジデンス、10,000を超えるレストラン、バー施設を展開し業界を牽引しているホスピタリティグループ。

※2.非化石電源で発電された電力の非化石価値を切り離して証書化した非化石証書のうち、太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなどの再エネ由来であるもの。

事業の概況 (2023年中間)

●当社グループは、国内外において「ウィズコロナ」の生活様式が浸透し、その影響も一服したことで、経済活動の正常化が進み、業務用ビール売上、ビヤホールなどの外食需要が前年同期から回復しました。一方で、ウクライナ情勢や円安進行、原材料やエネルギー高騰にともなう物価上昇により、消費者の生活防衛意識が高まることが懸念されるなど、依然として先行きが不透明な状況が継続しています。

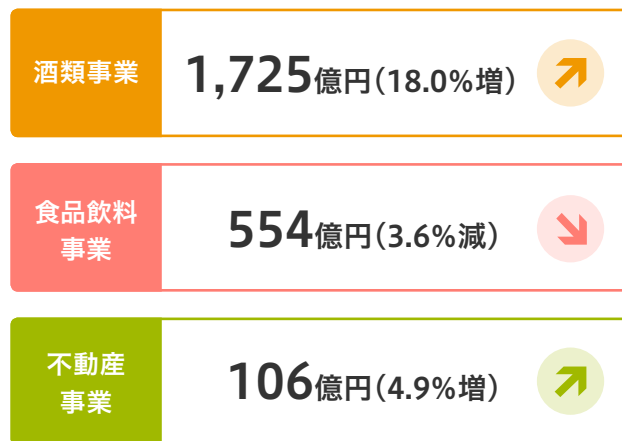
そのようななか、連結業績は、原価高騰の影響を受けたものの、価格改定等によりその影響を吸収し、前年同期から売上収益および事業利益は増加しました。営業利益および親会社の所有者に帰属する四半期利益は、事業ポートフォリオの見直しの一環で検討を進めていた海外子会社の解散を決議したことともなう減損損失の計上等により、減益となりました。

●酒類事業は、業務用市場の回復、価格改定および外食事業の構造改革効果等により、売上収益および事業利益は増加しました。

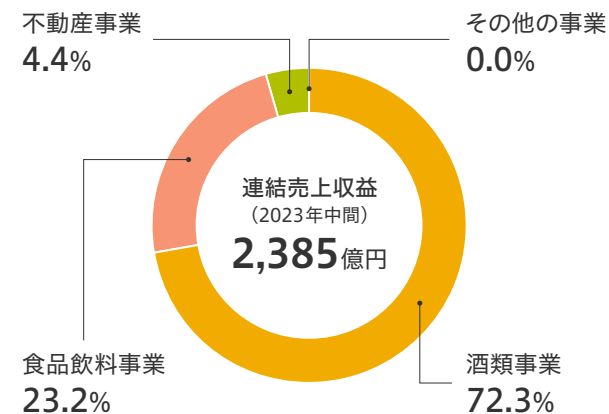
●食品飲料事業は、自動販売機オペレーター子会社の清算にともなう稼働台数の減少等により売上収益が減少した一方で、価格改定や構造改革効果が寄与し、事業利益は改善しました。

●不動産事業は、2022年11月の「恵比寿ガーデンプレイスセンタープラザ」のリニューアルオープンの効果等により売上収益が増加した一方で、「恵比寿ガーデンプレイス」のオフィス棟の空調機能更新工事の影響等により、事業利益は減少しました。

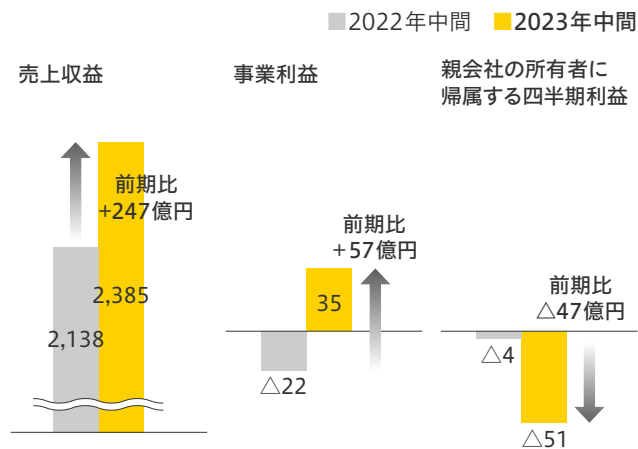
セグメント別売上収益



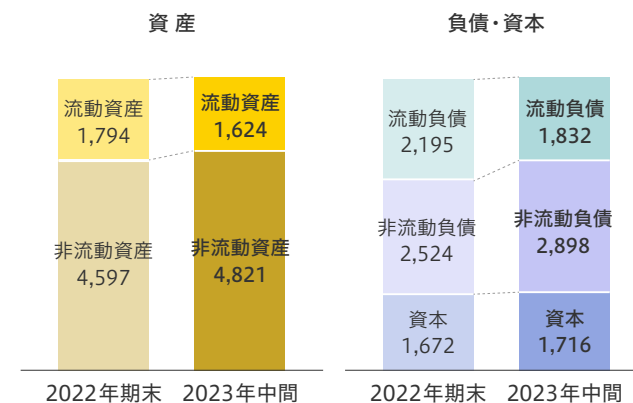
※括弧内の数値は対前年同期の増減率



損益の状況 (単位:億円)



財政状態 (単位:億円)



優待制度のご案内 2022年12月期のお申込みは、2023年4月28日(金)をもって終了しております。

2022年度 ご優待	長期保有株主様(3年以上保有)	3年未満保有株主様	
200株 〜 1,000株 未満の 株主様	次の①〜④の中から一つを選択していただきます。		
	①ビール詰め合わせセット (350ml缶×12本) 	②食品・飲料水詰め合わせ (3,000円相当) 	次の①〜③の中から一つを選択していただきます。
	③サッポログループ ネットショップ限定 ECクーポン(3,000円)	④社会貢献活動への寄付 (2,000円)	①ビール詰め合わせセット (350ml缶×8本) 
			②食品・飲料水詰め合わせ (2,000円相当) 

100株〜200株未満の株主様、1,000株以上の株主様の優待もご用意しております。

社会貢献活動への寄付

株主様への優待品に代えて、寄せられました寄付金額と同額を当社からも拠出し、合わせた金額を右記の事業に寄付いたします。

地域課題解決支援
国産レモン生産振興活動への寄付
(寄付対象:大崎上島地域農業振興協議会)

ウェブサイトへ

適用時期

- 毎年12月31日(株主名簿基準日)現在の株主名簿に記載または記録された100株以上の株主様が対象となります。
- このうち、次の2つの要件を満たした方が長期保有株主様となります。
 - ①株主名簿基準日を起点として連続3年以上にわたり、100株以上を保有されている方
 - ②上記①の期間、同一株主番号で株主名簿に記載されていた方

ご優待制度の内容は
2022年度の内容です。



▼ 詳細はこちらから

サッポロホールディングス 株主優待

URL <https://www.sapporoholdings.jp/ir/investor/benefit/>

会社法
改正により

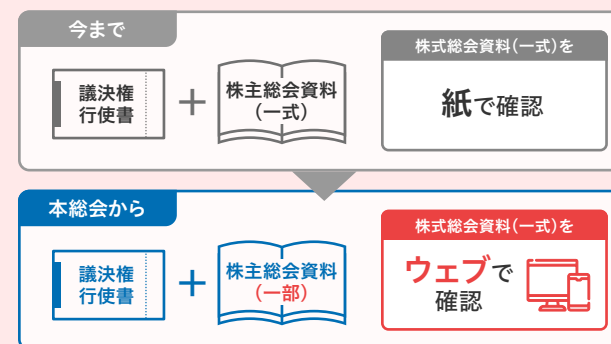
株主総会資料が原則

ウェブサイト^①で電子提供されます

2024年3月以降の定時株主総会より、これまで郵送していた株主総会資料(招集ご通知)をウェブ化いたします。

株主の皆様におかれましては、会社から通知書面にてご案内するウェブサイトにアクセスすることで、株主総会資料をご確認いただくことができます。

引き続き書面で株主総会資料の受領(書面交付申請)を希望される場合には、みずほ信託銀行証券代行部へお問い合わせいただき、当社の株主総会基準日である12月31日までに所定のお手続きを完了させてください。



◎主な変更点

ウェブサイトへのアクセス方法等を記載した通知書面をお送りします。株主総会資料の全文はウェブサイトへアクセスすることで確認できます。※議決権行使書は原則、今まで通りお送りします。

インターネットのご利用が困難な株主様へ

書面で受領するためのお手続きが可能です。
(書面交付請求)
みずほ信託銀行 証券代行部へお問い合わせください。

本制度について
詳しくはこちら ▶

ウェブサイトへ

お問い合わせ先

みずほ信託銀行 証券代行部
株主総会資料ウェブ化に関するお問い合わせ窓口

- 電話番号: 0120-524-324
- 受付時間: 平日9:00~17:00
(土・日・祝祭日はご利用いただけません。)

会社概要

商号	サッポロホールディングス株式会社 (英文 SAPPORO HOLDINGS LIMITED)
設立	1949年9月1日(創業明治9年)
資本金	53,887百万円
事業内容	持株会社
本社	〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号 (恵比寿ガーデンプレイス内)

役員(取締役・グループ執行役員)

取締役(監査等委員である取締役を除く)

代表取締役社長	尾賀 真城
常務取締役	松出 義忠
取締役	佐藤 雅志
取締役	松風 里栄子
取締役(社外)	マッケンジー・クラグストン
取締役(社外)	庄司 哲也
取締役(社外)	内山 俊弘
取締役(社外)	種橋 牧夫

監査等委員である取締役

取締役 監査等委員長(常勤)	溝上 俊男
取締役(社外)	福田 修二
取締役(社外)	山本 光太郎

グループ執行役員

常務グループ執行役員	野瀬 裕之
常務グループ執行役員	三宅 祐一郎
常務グループ執行役員	時松 浩
常務グループ執行役員	宮澤 高就
グループ執行役員	征矢 真一
グループ執行役員	和田 啓

株式の状況

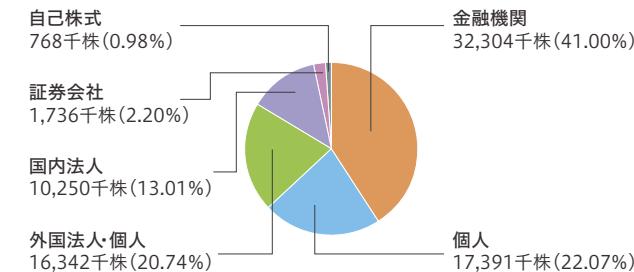
発行済株式の総数	78,794,298株
株主数	70,227名

大株主(上位10名及びその状況)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,476	15.99
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,205	4.11
株式会社日本カストディ銀行 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,442	3.13
3D OPPORTUNITY MASTER FUND	2,400	3.08
日本生命保険相互会社	2,237	2.87
明治安田生命保険相互会社	2,236	2.87
農林中央金庫	1,875	2.40
丸紅株式会社	1,649	2.11
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	1,594	2.04
大成建設株式会社	1,400	1.79

※持株比率は自己株式(768,492株)を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



株式事務に関するご案内

配当金の口座振込の制度をご存知ですか?

配当金を
郵便局の窓口で
お受け取りの場合

- 受け取り忘れのリスクがあります。
- 郵便局へ行く手間がかかります。



配当金の振込指定の場合

ご指定の口座に振り込まれるため、配当金のお支払い開始日に安全かつ確実に配当金のお受け取りができます。

お手続きに関するお問い合わせ先

- 証券会社に口座をお持ちの株主様は、お取引口座のある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部へお問い合わせください。

特別口座からの振替のお手続きはお済みですか?

特別口座に記録された株式は、単元未満株式(100株に満たない株式)の買取・買増請求を除き、売買や譲渡等のお取引を行うことができません。特別口座に記録された株式の取引を行うためには、証券会社に取引口座を開設していただいたうえで、特別口座から証券取引口座に振替を行っていただく必要があります。

特別口座から証券取引口座への振替をご希望の株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部へお問い合わせのうえ、お手続きをお願いします。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月下旬
配当金受領の 株主確定日	12月31日及び 中間配当を実施するときは6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (フリーダイヤル)0120-288-324
公告方法	電子公告 https://www.sapporoholdings.jp/ ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。